

◎元旦礼拝聖句 説教題「わたしは新しいことをなす」(イザヤ書43章8～20節、コリント人への手紙第二5章11～19節)

「見よ、わたしは新しいことを行おう。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒れ地に川を設ける。」(43:19)

「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(5:17)

◎「一年の計は元旦にあり」とあります。伝道開始40年の節目の年に神様はどのような新しい御業を行おうとしておられるのでしょうか？ 期待して祈り待ち望みましょう。

◎イザヤ書43章の主題は「イスラエルを贖う神」です。1節の冒頭に「だが」とありますが、原文では「しかし今」で、その民への神様の救いが約束されているのです。

神様の救いの約束は、かつてイスラエルの民がエジプトで400年間奴隷であった状態からモーセを立てて解放の御業を行われたのです。その神様がバビロンの捕囚よりイスラエルの民を解放される約束をしておられるのです。そのわざを神様はペルシャのクロス王を用いてその解放のわざを行われたのです。そのようにして贖いの御業を行われた神様が、神様は今、「新しいことを行おう」と約束されたのです。その「新しいわざ」とは何なのでしょう。当教会にとっても、自分の家族のため、また自分のために何をなして下さるのでしょうか？ この節目の年、神様に期待しましょう。

◎コリント人への手紙第二5章11節以下の主題は「真正の使徒」で、①主の愛に動かされる者(5:11～15)、②和解の福音の使者(16～19)に分解されます。

◎「キリストの愛が私たちを取り囲んでいる」「(「駆り立てる」「迫っている」「締め付ける」「占めつくす」の意)とパウロの告白を通して、パウロ自身の生き方の本質を見せられます(14)。パウロは、今までのように「人間的な標準」でキリスト及び人を見ることから、キリストにあって新しく創造され、変えられたのです(16, 17、コリント教会の中には「人間的な標準」で判断し、パウロを批判する者がいた)。

◎神様は「キリストの死」(14, 15)によって、①神様と人間を「和解させ」(ローマ5:10～11)、②「和解の務め」をパウロに託されたのです。そのために神様は「違反行為の責めを人々に負わせない」「責任を問うことなく」「数えない」「見過ごす」「認めない」の意)で、罪人(背く者)のための代わりとして「罪を知らない方(キリスト)を罪」とされ「徹底的に裁かれた」。それが十字架の福音なのです。

◎当教会にとって節目の年、新会堂で諸行事が行えないのでしょうか？ 家族の救いの御業、自分が変えられること等。